



平成 22 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・オー・データ機器
 代表者名 代表取締役社長 細野 昭雄
 (J A S D A Q ・ コード 6 9 1 6)
 問合せ先
 役職・氏名 社長室 室長 真田 秀樹
 電話番号 076—260—3377

営業外損失(為替差損)の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成23年6月期第1四半期連結累計期間における為替差損の計上及び平成22年8月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 為替差損の計上

昨今の為替相場の変動により、平成23年6月期第1四半期累計期間において、為替差損2億53百万円を営業外費用に計上いたします。

なお、上記は平成23年6月期第1四半期末時点での為替相場の影響による為替差損であり、今後の為替相場によりこの額は変動いたします。

また、為替差損の計上による業績への影響等につきましては、業績予想の修正数値に織り込んでおります。

2. 平成23年6月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想数値の修正(平成22年7月1日～平成22年12月31日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想(A)	23,000	50	90	40	2円89銭
今回修正(B)	23,000	△700	△950	△1,170	△84円59銭
増減額(B-A)	0	△750	△1,040	△1,210	
増減率(%)	0.0	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年6月期第2四半期)	20,569	143	115	314	23円4銭

修正の理由

当企業グループの当第1四半期の業績は、伸張する地上デジタルTV関連需要に対応した製品の拡充を図り、売上高は当初の予想に沿って進捗しております。しかしながら、利益面においては、世界的な需要の減速懸念から、当企業グループに関する半導体や液晶パネル、ハードディスクドライブ等の主要部品の市況が急落したことに加え、円高の進行にともない最終製品の下落が進んだことにより、TV関連需要の急増に備え前期末より積み増していた在庫に大幅な評価損が生じた他、在庫調整に係る在庫補填等の減益要因が発生し、営業利益以下の全ての項目で損失を計上する結果となりました。

第2四半期以降の業績につきましては、売上高は引き続き堅調に推移するとともに、利益面は前四半期にて採算の悪化をもたらした在庫の調整も進む予定にありますことから、一定の利益改善を見込んでおります。しかしながら、急速に進んだ製品の低価格化の影響により、当初想定していた利益率を下回る見通しにあり、当第1四半期の損失を挽回するのは困難な見通しにございますことから、前回公表いたしました第2四半期連結累計期間の業績予想から売上高は変更いたしません、営業利益、経常利益及び当期純利益は、下回る見通しであります。

3. 平成23年6月期通期の連結業績予想数値の修正（平成22年7月1日～平成23年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	48,500	450	530	500	36円15銭
今回修正（B）	48,500	△450	△670	△920	△66円52銭
増減額（B－A）	0	△900	△1,200	△1,420	
増減率（％）	0.0	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成22年6月期）	44,632	312	350	566	41円26銭

修正の理由

当企業グループを取り巻く経営環境は、世界経済の減速や円高の進行により、先行き不透明感が増しております。また、世界的な電子部品の市況見通しにおいても、需要の減速懸念から市況の下落傾向は続くとの見通しもあり、予断を許さぬ状況が継続するものと予想されます。

当企業グループは、全社を挙げたコスト削減と成長分野への集中拡販による利益改善に努めてまいりますが、第2四半期連結累計期間の業績修正を踏まえ、通期の業績予想について精査しました結果、売上高は変更いたしません。営業利益および経常利益、そして当期純利益は当初の予想を下回る見通しでありますことから、前回公表いたしました予想を修正いたします。

（注） なお、この資料に記載されております業績等の予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は状況の変化により、この資料に記載されている予想とは異なる場合があることをご承知おき下さい。

以 上